



2019年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年1月31日

上場会社名 京福電気鉄道株式会社
 コード番号 9049 URL <http://www.keifuku.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡本 光司
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長 (氏名) 長尾 拓昭
 四半期報告書提出予定日 2019年2月8日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 075-841-9385

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第3四半期の連結業績(2018年4月1日～2018年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	9,626	9.5	1,202	25.7	1,189	27.3	740	28.6
2018年3月期第3四半期	8,791	1.3	956	5.3	934	4.6	576	4.3

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 764百万円 (14.6%) 2018年3月期第3四半期 667百万円 (3.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	372.70	
2018年3月期第3四半期	289.70	

当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算出しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第3四半期	19,503	7,565	35.3	3,461.72
2018年3月期	19,472	6,845	32.0	3,131.76

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 6,882百万円 2018年3月期 6,226百万円

当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり純資産を算出しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期		0.00		20.00	20.00
2019年3月期		0.00			
2019年3月期(予想)				20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,000	4.8	790	15.7	740	13.6	560	13.9	281.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年3月期3Q	2,000,000 株	2018年3月期	2,000,000 株
期末自己株式数	2019年3月期3Q	11,810 株	2018年3月期	11,790 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年3月期3Q	1,988,196 株	2018年3月期3Q	1,988,809 株

当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、期中平均株式数(四半期累計)を算出しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想については、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。
なお、業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米中通商摩擦の深刻化やOPECの減産による原油価格の高騰など世界経済の減速が懸念されましたものの、堅調な企業収益によって緩やかな回復基調で推移しました。

このような状況のもと、2018年9月29日から10月15日の間、福井県において「福井しあわせ元気国体・元気大会」が開催され、福井地区の当社グループ各社は、選手・大会役員など参加者の宿舎の提供と大会会場間の輸送や観客のシャトル輸送、さらには、運営に係る多方面で参画しました。また、京都地区におけるインバウンド需要も堅調に推移し、運輸、不動産、レジャー・サービスの各事業にわたり、積極的な営業活動を展開しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の当社グループの営業収益は9,626百万円（前年同期比835百万円、9.5%増）となり、営業利益は1,202百万円（前年同期比245百万円、25.7%増）となりました。これに営業外収益および営業外費用を加減した経常利益は1,189百万円（前年同期比254百万円、27.3%増）となり、特別利益および災害による損失などの特別損失ならびに法人税等を加減した親会社株主に帰属する四半期純利益は740百万円（前年同期比164百万円、28.6%増）となりました。

次に、セグメント別の状況をご報告いたします。

① 運輸業

鉄軌道事業におきましては、嵐山線では、秋の行楽シーズンは天候に恵まれ、国内外の旺盛な旅客需要にも支えられ、好調に推移するなか、オンラインゲーム「刀剣乱舞」とのコラボレーション企画が好評を博し、多くのファンの皆さまにご利用いただきました。「沿線深耕」の取組みとして、沿線周辺の寺院をめぐる「めぐるとび新しい京都」シリーズの鹿王院の夜間特別拝観や右京区役所、京都調理師専門学校との京の食文化を学ぶ親子料理教室の共催など、行政をはじめ沿線関係先との協働による沿線地域のブランド価値の創造と魅力発信に努めました。鋼索線（叡山ケーブル・ロープウェイ）では、多くのお客様が来訪される瑠璃光院の秋の特別拝観に合わせ、当社の施設をご利用していただくため、「八瀬もみじの小径」のライトアップを行うとともに運行期間を年末まで延長することで増収に努めました。

バス運送事業におきましては、京都バス(株)では、観光需要が好調を維持するなか、課題である運転士の要員確保に努めました。なお、2019年3月で終了する京都市交通局のバス事業管理受託につきましては、次期5年間の事業者者に再選定されました。京福バス(株)では、2018年4月、10月に実施した路線バス広域系統の再編とグループ乗合タクシーへの移管について広報活動を行うなど利用促進に努めました。貸切バスでは、グループ各社の営業窓口を一本化したことが奏功し、「福井しあわせ元気国体・元気大会」の輸送支援を含め、受注拡大につなげることが出来ました。

以上の結果、運輸業の営業収益は6,099百万円（前年同期比204百万円、3.5%増）となり、燃料費の増加はあったものの営業利益は563百万円（前年同期比107百万円、23.5%増）となりました。

② 不動産業

不動産賃貸事業におきましては、度重なる台風や豪雨などによる各施設の被害復旧も順調に進み、「ランフォート西院」「コンソラーレ土佐堀」などの賃貸施設の入居率も堅調を維持しました。また、嵐電沿線の地域ブランドの創出と沿線人口の増加を目的とした「らんでんすもすもプロジェクト」では、営業活動中の物件に加え、新たな物件の取得や借り上げ物件の確保を進めており、これまでの子育て世代向けの賃貸事業及び販売事業にも展開してまいります。「BOAT RACE（ボートレース）三国」では、2018年4月から9月まで開催した「モーニングレース」に合わせ、レース情報の配信強化などを実施しました。2018年10月以降も電話投票の売上は堅調に増加し、新たなファン層の取り込みが着実に進みました。なお、同競艇場建物や「嵐電帷子ノ辻駅ビル」の大型施設において、ご利用者の安全を図るため、耐震補強工事を継続して実施しております。

以上の結果、不動産業の営業収益は2,329百万円（前年同期比433百万円、22.9%増）となり、営業利益は519百万円（前年同期比80百万円、18.4%増）となりました。

③ レジャー・サービス業

飲食、物販業におきましては、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」では、オンラインゲーム「刀剣乱舞」とのコラボレーション企画によるグッズ商品や飲食利用の売上が増加しました。ホテル業では、2018年3月に取得した「ホテル京福 福井駅前」や「三国観光ホテル」において、「福井しあわせ元気国体・元気大会」の選手や監督、運営関係者や応援のお客様にご利用いただき増収となりました。水族館業では、全国の水族館でも数少ないオウサマペンギンの繁殖がマスコミの話題となるなどお客様の関心を呼び、多数のご来場をいただきました。

以上の結果、レジャー・サービス業の営業収益は1,574百万円（前年同期比237百万円、17.8%増）となり、営業利益は121百万円（前年同期比61百万円、102.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は、固定資産の増加などにより、前連結会計年度末に比べ30百万円増加し、19,503百万円となりました。負債は、借入金や未払金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ689百万円減少し、11,937百万円となりました。純資産は、期末配当を実施した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ719百万円増加し、7,565百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年10月31日の「2019年3月期 第2四半期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,233	1,127
受取手形及び売掛金	1,321	1,236
販売土地及び建物	86	79
商品及び製品	23	26
原材料及び貯蔵品	46	42
前払費用	39	48
その他	373	366
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	3,120	2,923
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,315	9,382
機械装置及び運搬具(純額)	1,482	1,373
土地	3,594	3,636
リース資産(純額)	703	886
建設仮勘定	19	173
その他(純額)	349	335
有形固定資産合計	15,465	15,788
無形固定資産	193	177
投資その他の資産		
投資有価証券	317	252
繰延税金資産	82	90
その他	301	278
貸倒引当金	△9	△8
投資その他の資産合計	691	612
固定資産合計	16,350	16,578
繰延資産		
社債発行費	1	1
繰延資産合計	1	1
資産合計	19,472	19,503

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	52	65
短期借入金	3,656	3,573
1年内償還予定の社債	45	45
リース債務	156	165
未払金	972	553
未払法人税等	110	333
未払消費税等	96	137
賞与引当金	223	99
その他	540	515
流動負債合計	5,855	5,489
固定負債		
社債	65	42
長期借入金	4,446	4,071
リース債務	603	775
長期未払金	416	363
繰延税金負債	635	599
役員退職慰労引当金	57	53
退職給付に係る負債	243	231
その他	302	310
固定負債合計	6,772	6,448
負債合計	12,627	11,937
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	290	291
利益剰余金	4,852	5,553
自己株式	△19	△19
株主資本合計	6,123	6,825
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	103	56
その他の包括利益累計額合計	103	56
非支配株主持分	619	682
純資産合計	6,845	7,565
負債純資産合計	19,472	19,503

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
営業収益	8,791	9,626
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	7,754	8,348
販売費及び一般管理費	80	75
営業費合計	7,835	8,424
営業利益	956	1,202
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	7	8
雑収入	25	29
営業外収益合計	33	38
営業外費用		
支払利息	38	37
社債発行費償却	0	0
雑支出	15	12
営業外費用合計	55	50
経常利益	934	1,189
特別利益		
固定資産売却益	12	95
受取保険金	—	29
移転補償金	149	—
補助金収入	7	—
特別利益合計	170	124
特別損失		
災害による損失	15	59
固定資産除却損	39	49
減損損失	—	6
損害賠償金	152	—
固定資産売却損	6	—
特別損失合計	214	115
税金等調整前四半期純利益	890	1,198
法人税、住民税及び事業税	323	414
法人税等調整額	△43	△26
法人税等合計	279	387
四半期純利益	611	810
非支配株主に帰属する四半期純利益	35	69
親会社株主に帰属する四半期純利益	576	740

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	611	810
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	55	△46
その他の包括利益合計	55	△46
四半期包括利益	667	764
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	631	694
非支配株主に係る四半期包括利益	35	69

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	5,880	1,759	1,152	8,791	—	8,791
(2) セグメント間の内部営業 収益又は振替高	15	136	184	336	△336	—
計	5,895	1,895	1,336	9,127	△336	8,791
セグメント利益	456	438	59	954	1	956

(注) 1 セグメント利益の調整額1百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	6,084	2,190	1,352	9,626	—	9,626
(2) セグメント間の内部営業 収益又は振替高	14	138	222	376	△376	—
計	6,099	2,329	1,574	10,003	△376	9,626
セグメント利益	563	519	121	1,203	△1	1,202

(注) 1 セグメント利益の調整額△1百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。